

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 21 年 2 月 2 日
事業所名	グループホーム好日庵
ユニット名	1 ユニット
事業所番号	2374000384
記入者名	職名 管理者 氏名 原田郁代
連絡先電話番号	0536-35-6100

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	情報誌のなかに認知症の人を理解してもらうために、かかわり方を日常の生活を通してさりげなく伝えている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をすることで日頃見落としているような事を気づく良い機会ととらえて生かしている		基本は大切にしながら個性あるホームづくりを目指したい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催している。毎回馴染みのある地域の方にも参加をお願いし、沢山の方にホームの運営を知ってもらえるようにしている		これからも多職種のかたに参加していただけるように声をかけてゆく
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の報告、情報誌の配布、家族会の議事録、年間行事計画など報告し、ホームの様子を伝えたり、必要時相談を行いアドバイスをいただいたりしている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	県の高齢者権利擁護推進員要請研修に法人から1名参加し、その伝達研修を行なった		日頃のホームの研修のなかにも、もっと取り入れてゆく
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングの中で事例として取り上げ、話し合いみんなでレポートを提出した。虐待防止のマニュアルの作成を行なった		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ゆっくりとした時間をとり丁寧に説明している</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置。ホームに訪問時家族と話を持つ機会をつくっている。法人全体であるが苦情対策委員会がある</p>	<p>日頃の交流が一番大切であると考え、お互い言いやすい人間関係を作ってゆく</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>入所者さんの様子など変化があったときなどは速やかに伝えている。定期的には1ヶ月に一回、入所者さんの様子については2ヵ月に一回お便りでお伝えしている</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会の時を利用してアンケートを行った</p>	<p>今後もアンケートを機会あることに行なうと良い</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のミーティングの開催。毎日のショートミーティングの実施。各行事を職員の意見を反映し職員主体で行なえるように支援している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事などを行なうときは、職員の数を増やして勤務を組んでいる</p>	<p>今後入所者さんが高齢化、症状の重度化も考えられるために勤務体制も変化してゆくことが考えられる</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3年間退職者がなく、、ほぼ同じメンバーで運営している。運営できている。職員の移動は1名くらいで行なうように配慮している。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修も段階に応じうける機会を確保している。資格取得を勧めている		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の他のグループホームとの交流会を行なった		今後も枠を外していろいろな交流会を行ないたい
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間の確保。職員の体調に気を配る。コミュニケーションをよくとるようにする。勤務表は本人の希望もなるべく取り入れるようにしている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修に参加して各自向上心をもって働くことが出来ている。認知症ケアの専門職としての誇りとやりがいを感じれる場面作りを行なう。		チームリーダーの育成、チームアプローチを行いチームの力をつけてゆく取り組みをして行くことが大切と考えている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>いつでも話が出来るようにオープンにしている。訪問時ゆっくりとした時間がとれ話が出来るようにしている。</p>	<p>申し込み待機者に対して、ただ待っていただくのではなく情報を伝えながら不安も取り除いてゆくような働きかけも大切であると思う</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>傾聴し相談にこられた家族の気持ちを受け止めるようにしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要に応じ介護保険制度や他のサービスなどを紹介している</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所時家族の方も一緒に生活（宿泊）していただいた。</p>	<p>ホームを開設して3年経過したことで、デイサービスやショートステイのサービスも可能となるので今後検討して行く</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常のや会話や日常生活（台所、洗濯、掃除、花作り・・・）を一緒に行い昔の知恵などをおしえてもらったり、支えあう関係を作っている</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時などは本人の状態を家族に伝えることや、ていぎてきに家族会を開き職員との交流を図っている		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	夏祭りクリスマス会などで、家族の方に参加していただき、一緒に会の運営を行なっている。2ヶ月に一回入所者さんの様子のお便りをだしている。		入所者さんの様子のお便りの内容を検討して、出来れば1ヶ月に一回出せるようにしたい
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	歯医者、美容院など本人の意向に添った支援をしている。近所で知り合った方に時々散歩しながら立ち寄り交流している。又本人の馴染みの方との交流を大切に支援している		大切にしてきた場所についても支援できるようにしたい
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲のよい入所者同士が過ごせる配慮をしながら、あまり交流がもてない入所者同士でも職員が中に入りながら会話できるように支援したり、会話の内容が理解できないような時はさりげなく伝え交流を図るようにしている		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			今後大切にしていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段の会話の中から、その方の思いを聞きだしたりして、その思いを実行できるように検討している。センター方式を活用して6ヶ月ごとにアセスメントしている。起床就寝はそれぞれの時間に合わせている</p>	<p>パーソンセンタードケアの考え方を大切にして、振り返りのときに今後も活用したい</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族や本人に話を聞き、昔の写真を持ってきてもらったり馴染みの家具、茶碗などを使用している</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の体調に注意している。ミニミーティングなどで情報を共有し現状の把握に努めている。センター方式のアセスメント表を利用し出来ること、出来ないこと、わかること、わからないことを6ヶ月ごとにチェックしている</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>プラン作成時本人や家族、職員と話したり聞くなどにつとね情報を得る</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングを行い、家族にも伝えている。変化が生じたときは家族にも説明している</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	日々の記録やシュートミーティングの記録から反映するようにしている		今後ケアプラン実施表を活用し職員にケアプランの浸透を図り、それをモニタリングやアセスメントに生かしてゆきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	デイケアの音楽療法に月2回参加している。また医療との連携がスムーズに行なわれ健康管理に役立っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	運営推進会議のメンバーの方の協力により沢山の情報や協力ををいただき、大変役立っている		今後ボランティアの社会資源をより活用して入所者さんの満足するサービスの向上に努めたい
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>			
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>			今後権利擁護などの問題があるときには、包括支援センターの力も利用したい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医の診察を受けたり、緊急時の体制も整っている		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医と連絡を取りながら、治療を受けられるように支援している		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員の中に看護師が常勤でいる。いつでも連絡が取れる状態にある。ほかに准看護師が2名いる		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	過去に入院された場合は、入院先の病院に出向いたり関係者から連絡をいただくことができ、利用者の状態やかかわり方が把握できた		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けての意向を文章にて確認している。家族の中には返答に戸惑いを感じていられるかたもいますが、本人とは日常の何気ない会話の中で聞くこともできる		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	マニュアルを作成し職員にも伝え、家族にも必要時対応できるようになっている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入所者さんの誇りやプライバシーを損ねないような対応に取り組んでいる。職員間でこういう言葉遣いや言葉掛けはいけないだろうと話したりして気をつけている法人内で個人情報保護の委員会で研修等を行なっている</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人にかかわることはまず聞いて決めてもらえるように促し、決めれないときは話し合っ決めてるように働きかけている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>お風呂は一日おきとなっているがその他は、入所者さんのペースを大切にしておわせるように支援している。朝のミニミーティングでは時々入所者さんにも参加していただき希望などを聞いている</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>それぞれ自分で衣類などを選ぶように支援している。理容に関しては本人の希望に沿って援助している</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を作るとき一緒に参加してもらい、好みのものを聞いて作成している		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	時には喫茶メニューがあり飲み物を本人の希望をきいて作ったり、またビールの好きな方が2名見え、年に数回その時の気分で希望されるときに飲んでいただいている		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁などで排泄をうまく自分でコントロールできない方は時間を見てさりげなくトイレに誘導している		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの午後2時から入浴している。一度お風呂を夕方から行なったことがあったが夕食と重なり食べれないなどと日常生活が混乱してしまった。希望や状況によりシャワー浴や足よくなどで対応している。年に数回温泉の湯を利用している		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休むのは部屋でなく、ソファーや畳の間なども利用できるようになっている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お花、野菜作り、散歩、買物、ススキを使った鍋敷、などその方にあった好きなことを支援している		弁財の職員の人数では十分支援できないこともあるので今後ボランティアの力も利用したい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関してはお預かりしている。本人の希望に沿って自由に出し入れしている。金額の大きい時(1000円以上)は家族の方に相談している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ゴミ出し、回覧板、天気の良い日などは体調を見て散歩に出かけている。職員の人数、安全面の確保が出来るときは、なるべく希望に沿って援助している		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	音楽の好きな方が家族の方とコンサートに出かけたり、お墓参り、実家への外出、一泊旅行など出かけることがあった。ホームでは月に一回お楽しみ会として職員の全員出勤日を作り計画している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人や家族からかけていただいたり自由に行っている。手紙を入所者さんの様子によりお願いする事もある。昨年バレンタインレターを家族全員にお願いして大変好評でした。お返しに入所者さんから絵手紙を家族へ出して喜ばれた		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は自由に来ていただいている訪問されると居室で過ごされることが多い。職員は必ずお茶をお出しして、ゆっくりされるように言葉掛けと挨拶をしている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、拘束しないケアをめざしている。現在転倒防止や安全のためにセンサーやセンサーマットを使用することもある		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間2名の入所者が部屋に自分から鍵をかけてやすまれる。鍵をかけないケアであるが建物は3回にあるため自由にでかけられる状況ではない		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室にゆっくと過ごされているときもあるが長い時間ひとりになっていないようにそれとなく見守りを行なっている		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物、薬品などは所定の位置に管理保管している。私物に関してはそれぞれの状態に応じて管理している		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと、事故報告をすることにより対策を職員間で話し合っ取り組んでいる。緊急時の対応は法人の研修と一緒に勉強している（安全対策委員会、防災委員会など）		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人でAEDの講習会があり参加した。急変や自己に対して24時間かかりつけ医が対応してくれる。緊急時の対応マニュアルがある		応急手当や緊急時の対応は慌てないように日頃から勉強する機会を持つ
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月一回避難訓練を実施している。このことにより一人ひとりの意識が高まってきていると思う		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防委員会が季節や時期に合わせて指導を主体的に行なう。うがいや手洗い、消毒を実施している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品を出しっ放しにしない。冷蔵庫の管理、作った食材はその日のうちに使い切る。まな板フキンの消毒の徹底。日々の業務のなかでその取扱いを決めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている			病院施設の3階にあり、わかりにくいので1階入り口付近を工夫したい
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花や置物、飾りなどが置いてある。テレビは入所者さんと相談して時間を決めつけっぱなしにしない		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ、廊下、玄関の外など、ホームのどこどこに椅子が置いてあり好きなときに好きな所で過ごしていただいている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものを自由に持ち込んでもらっ て使用している		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	状況に応じ換気や温度調節を行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	通路や居室、トイレなどに手すりの設置。お風呂 には大工さんに頼んで浴槽の段差をなくし、並行 移動できるようにした。また以前よりも歩けなく なった入所者さんのために途中で座れるように椅 子の数を増やした		常に入所者さんの状態は変化しているので、気づ ぎと工夫でより皆が安全に過ごせるようにする
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	入所者さん個人の力に合わせて説明や伝え方を工 夫し、参加しやすいように言葉かけに気をつけ る。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ガーディニングや外気浴など入所者さんが楽しん だり活動できるようになっている		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム好日庵が開設され3年になりました。ホームのリビングには「私らしく、安気に、おもしろく」と掲示しています。ある訪問者が好日庵にみえて面白い評価をしてくださいました。“ここのお年寄りの方は、その辺の地域にいるお年寄りの方と同じ顔をしている！”と。“ホームの時間がゆったりと流れ私のほうが逆に癒されるのはなぜ？”と。このことは、3年間職員と入所者さんが向かい合ってお互いに作り上げてきたものなんだなあと思い嬉しくなりました。認知症といっても人それぞれに症状が違い、それに対する行動も違います。表面に出ている言葉や行動ばかりに気が奪われると本当の気持をつかめなくなってきました。職員だって間違いを犯します。けれど心がその方にきちんと向き合っていれば、認知症の方はちゃんと許してくれます。認知症のケアは専門職でなければいけないとホームをつくるときに考え、バリデーションの原則を柱に、まず職員を育てることを一生懸命やってきました。今は私たちが育ててくれたお年寄りの方一人ひとりが私たちにとってかけがえのない大切な人です。尊敬する小澤勲先生の言葉に「認知症ケアのゴールは、ほっとした笑顔に出会うこと」と。この言葉は職員全員の心に染みこんでいます。これがグループホーム好日庵なのです。